



さが プログラミングアワード 2020

特別協賛 学映システム

佐賀県内の小学生がプログラミングのアイデアや完成度を競う「さがプログラミングアワード2020」(佐賀新聞社主催、公共デザインイニシアティブ共催、学映システム特別協賛)が昨年12月26日、佐賀市で初めて開かれた。一次審査を通過した15人が個性の光る作品を発表し、低学年と高学年の2部門でそれぞれ大賞、準大賞、アイデア賞が選ばれた。大会の様子と受賞者の声を紹介する。(中島佑子)

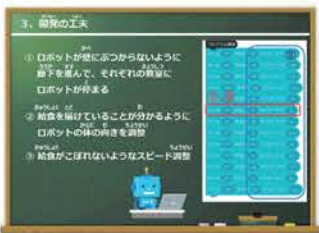
低学年 「学校がもっと楽しくなるもの」

大賞 「全集中給食の呼吸 春日北小きゅう食 はいぜんシステム」

うえむら りゅうへい
上村 龍平さん

春日北小2年
(パソコンスクール エヌビーコム)

大賞を取れると思っていなくて驚いたけれど、うれしかった。みんなに分かりやすく説明するのは大変だった。本番ではプログラミングは楽しいということをしっかり伝えられたと思う。将来、自分でプログラミングしたロボットを動かしてみたい。



重くて大変な給食を運ぶ作業をロボットが代わりにやってくれるシステムを考案していた。現実とコンピューターの世界をつなぎ、プログラミングで細かくコントロールされていたところはすごかった。

高学年 「学校で役に立つもの」

大賞 「代わりの消しゴム」

こが たくと
古賀 巧準さん

三日月小6年
(明光養塾小城教室)

「大賞を取るんだ」と強い気持ちでステージが上がった。登壇の仕方を工夫して印象に残る発表を心掛けた。本番は制限時間を少し超えてしまったので、時間内に伝えられるように練習して、全国大会でも大賞を目指したい。



アーム型ロボットに、消しゴムをつかませ、紙に書かれた文字を紙を破かすに消す人の動きを再現していた。サーボモーターの制限に苦心の成果が見て取れた。プログラミングによって大胆に動くロボットを現実世界に提示されて驚いた。

古賀巧準さんは、3月21日にリモートで開催される全国選抜小学生プログラミング大会に佐賀県代表として出場します。

個性光る作品発表

準大賞 「ジャンプ!ジャンプ!ジャンプ! 学校での今日の運勢」



いわた にな
岩永 日翔さん
有田中 小3年

大会をきっかけに独学でプログラミングを始めた。本番は緊張せず、ワクワクした。友達に遊んでもらっている動画やアンケートを入れて、みんなに楽しんでもらえた作品だと信じていた。工夫した。3Dのゲームや役立つロボット作りにも挑戦したい。

転がってくるボールをよけるゲームは、5秒間よけることができるとゲームクリアで、今日の運勢が出てきた。どのようなプログラミングがなされているかを知りたいという動機は素晴らしい。

アイデア賞 「ぐるぐるくんのもんだいをこたえよう」



あんどう こうせい
安藤 好誠さん
神野小2年
(TENTO EX. さが)

本番に向けて、教室で20回くらい練習した。発表の準備は大変だったけれど、スライドを変えながら発表するのは楽しかった。受賞できてうれしかったし、満足している。またプログラミングの大会があったら参加してみたい。

オリジナルキャラクターぐるぐるくんが出題する図形の問題に答えるアプリは、ぐるぐるくんの底知れない魅力を感じた。プログラミングを使って学びを深められないかという思いが感じ取れた。



本選に出場したみなさん

特別協賛社ごあいさつ

株式会社学映システム
代表取締役社長 岡村祐臣

小学生が大人になった時には、想像がつかないくらいICT技術が進んでいると思います。勉強やスポーツ、音楽と同じようにプログラミングをすることが子どもたちの将来に必ずプラスになると信じて大会のお手伝いをしています。楽しみながら取り組まれることを期待します。

全体講評

佐賀大学教授 堀 良彰

自分が作りたいものがプログラミングで表現できるようになっており、表現手段として誰もが使える時代になっていると実感しました。作品は、それぞれの思いが伝わり、頼もしく感じます。自分の作品をたくさんの人に見てもらってください。プログラミングが社会にさらに浸透することを願っています。

準大賞 「県庁所在地を覚えよう!!」



なかしま じおん
中島 慈恩さん
成和小5年
(キッズプログラミング教室GLOTEC)

人前で話すのが苦手で、両親の前で1日3回練習してステージに立った。本番は大きな声で話すことを意識した。他の人がはきはきと発表する姿を見ていたので、まさか自分が準大賞に選ばれると思わなかったけれど、うれしかった。

都道府県の県庁所在地を楽しく学べるアプリは、地名と場所や観光名所も同時に覚えるように工夫したもので、「楽しい」という言葉が出てきたのが印象的だった。都道府県がランダムに表示されるのはゲーム性・意外性があると面白かった。

アイデア賞 「スクールマップ」



なかみぞ はるや
中溝 晴哉さん
樋湧小6年
(TENTO EX. さが)

出場者のみんなのレベルが高くて受賞は難しいと思っていたが、頑張ってきたことが結果に結びついたと思う。他の出場者の発表を見て刺激を受けた。同じような大会が開かれたら、次は大賞を目指して挑戦してみたい。

学校内で行方不明にならないように、色々な場所が分かる探検アプリを考案していた。通っている学校の様子をコンピューター上にデータ化して取り組んでおり、パッチャル・リアリティーそのものだった。

審査方法

17人から応募があり、1次は作品と書類で審査。本選は15人が3分間で作品を発表し、審査員からの質疑に答えた。アイデアの背景・制作過程・試行錯誤や努力点、テーマとの合致など作品の完成度とプレゼンテーション資料の魅力や発表のでき、質疑応答での受け答えを審査した。

審査員

- 堀 良彰 (佐賀大学教授、公共デザインイニシアティブ副理事長)
- 中原 裕文 (佐賀県教育委員会 指導主事)
- 高谷 啓太 (佐賀県高度情報化推進協議会 会員)
- 黒木 智彦 (株式会社学映システムICT支援グループ 技術担当課長)
- 森本 貴彦 (佐賀新聞社 メディア局長)

作品や発表の様子を公開

本選出場者の作品や発表の様子を公開しています。大会公式サイトからご覧いただけます。



さがプログラミングアワード 検索

大会に関する | 大会事務局 佐賀新聞プランニング
問い合わせ | 電話:0952-28-2151 (平日9時半~17時半)

主催:佐賀新聞社 共催:特定非営利活動法人公共デザインイニシアティブ

特別協賛
株式会社 学映システム

後援:佐賀県、佐賀県教育委員会、20市町教育委員会、佐賀県高度情報化推進協議会、未来の学びコンソーシアム、経済産業省、全国新聞社事業協議会



こどもの夢をお手伝いします

株式会社 学映システム
Gakuei System



- 佐賀本店 佐賀市鍋島町大字森田902番地 TEL0952-34-5280/FAX0952-34-5285
- 武雄支店 武雄市武雄町大字永島15877番地1 TEL0954-22-4124/FAX0954-22-4109
- 唐津営業所 唐津市和多田用尺12番39号 TEL0955-70-2270/FAX0955-70-2277
- 久留米営業所 久留米市東合川8丁目8番21 TEL0942-41-4315/FAX0942-41-4317
- 福岡営業所 福岡市博多区千代2丁目1番15 TEL092-260-7664/FAX092-260-7665
- 沖縄営業所 沖縄県島尻郡与那原町字東浜80番4 TEL098-917-2707/FAX098-917-2708